

二一八七番

妹が袖いもそで 卷来まききの山やまの 朝露あさつゆに にほふ黄葉もみちの 散ち
らまく惜をしも

二一八八番

もみち葉はの にほひは繁しげし 然しかれども 妻梨つまなしの木き
を 手折たをりかざさむ

二一八九番

露霜つゆしもの 寒さむき夕ゆふの 秋風あきかぜに もみちにけらし
妻梨つまなしの木きは

二一九〇番

我が門かどの 浅茅色あさぢいろ付く 吉隠よなばりの 浪柴なみしばの野のの
黄葉もみち散ちるらし